

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル603号
電話 03-6256-8082

第36回「在京花巻人のつどい」ご参加への御礼

在京花巻人会会長 瀬川 紘一



第36回となります「在京花巻人のつどい」を、去る7月9日(土) 御茶ノ水の東京ガーデンパレスで開催し、新型コロナウイルスの感染者が急増する第7波の直前でしたが、無事終了することができました。ご出席頂いた来賓の皆様、そして多くの会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。又、こうして「在京花巻人のつどい」の開催を続けられるのも、日頃からの会員の皆様や関係各位のご支援、ご協力の賜物であり、この機会に心より感謝を申し上げます。

前回に引き続き、今回も様々な新型コロナウイルス感染症対策を講じました。テ-

ブルは原則6人掛け、食事はテーブルに配膳するなど、今回も色々な制限の中での開催となりました。しかし、会場に溢れるご参加の皆さんのふる里花巻への熱い思いによって大いに盛り上がり、楽しい会となりました。

今回も11時に司会の伊藤佳子さんによる開会宣言でスタート。早速「総会」に入り会長挨拶、さらに3年度の活動報告、令和4年度の活動計画、

そして令和3年度の決算と令和4年度の予算が提案され、全ての議題が滞りなく承認されました。ただ、「総会」に時間がかり過ぎるとの声もあり、時間短縮が次回迄の宿題となりました。

「懇親会」の部は、11時30分に開始、まず上田東一市長と藤原晶幸市議会議長からご挨拶を頂きました。3期目をスタートさせた上田市長は、新型コロナウイルスの感染防止対策や市民と事業者への支援策などの成果を説明し、市政の積極的な推進について力強く語りました。又、藤原議長は在京花巻人会の会報の記事に言及しながら、花巻人の素晴



上田東一花巻市長

らしい国際性について話されました。続いて花巻農業協同組合の伊藤清孝代表理事組合長による挨拶と乾杯があり、その後歓談に入りました。



金津流横浜獅子躍

アトラクションは金津流横浜獅子躍、8人の踊り手の迫力ある演舞に会場の皆さんは満足げでした。さらに、恒例の「賢治を歌うコーナー」では、今回も及川慎先生の指導で種山ケ原、星めぐりの歌、精神歌を全員で合唱しました。最

後は小原紘一さんの岩手の名所を唄い込んだ相撲甚句で締め、高橋良光による中締めでお開きとなりました。来年の「在京花巻人のつどい」は7月8日(土)開催です。1年に一度ふる里花巻との絆を確かめ自分が花巻人であることを実感する、そんな会を目指しています。これまでご参加頂いて

会費納入のお願いと納入状況の報告

①令和4年度会費納入のお願い

在京花巻人会の運営に協力を賜りありがとうございます。花巻人は会員の皆様からの会費で運営させて頂いております。会費は「花巻人のつどい」「会報の発行」「各種の親睦会」に使用させて頂いております。4年度の会費2,890円(2,890円プラス加算金110円 合計3,000円)をまだお振込み頂いていない方は、6月1日付の会報66号を郵送の際に同封の振込票(振込手数料不要)で最寄りの郵便局より下記の口座に振込頂きますようお願いいたします。

在京花巻人会会長 瀬川 紘一

□座名義 在京花巻人会
□座記号番号 00240-6-111794

②令和4年度の会費納入のお礼と納入状況

4年度の会費納入は8月末現在220件635,800円です。会員皆様のご理解とご協力に感謝とお礼を申し上げます。 会計担当 高橋良光、板垣雅子

令和5年度「第37回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時: 令和5年7月8日(土) 11時~14時
会場: 東京ガーデンパレス
住所: 東京都文京区湯島1-7-5
電話: 03-3813-6211
アクセス: JR御茶ノ水駅 聖橋口

ている方々はもちろん、まだ参加されたことのない会員の方々も是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

『在京花巻人のつどい』に参加して



花巻市地域振興部長 藤井 保宏

花巻人会の皆様が一堂にして、「第36回在京花巻人のつどい」が盛会裏に開催できましたことをお喜び申し上げます。昨年に引き続き、新型コロナウイルス禍の中での開催となりましたので、瀨川会長をはじめ、役員や関係者の皆様のご尽力に敬意を表します。

今年、地域振興部に異動してきたため、初めての参加となりましたが、「つどい」では、参加された多くの方々からふるさと花巻にいたころの思い出や現在のご活躍の様子等をお話しでき、生まれ育った故郷を思う気持ちを強く感じました。そして、長い間、故郷を離れていても、学び育った花巻のことを大切にしている姿は、住んでいる私よりも深いと思えました。また、久しぶりにお会いした方とは、共通の懐かしい話題になり、過去の出来事などに思いを巡

らす楽しい時間を過ごせました。とはいえ、多くの参加があった「つどい」でしたので、一部の方としか挨拶ができなかった失礼をこの場を借りてお詫びいたします。

昨年に引き続き、感染症対策をとつての開催でしたが、参加した方々の表情はとても楽しそうでした。皆さんが一堂にできるこの企画は、会員のつながりを保持続けるために重要だと思いつつ、故郷のことを懐かしく思い起す場として、継続していただきたいと感じました。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、健康に留意されまして、引き続きふるさと花巻をご支援いただきたくようお願いいたします。



岡本 紀代子 (南城中38年卒)

私が初めてつどいに参加したのは2002年の第17回です。兄と姉の3人で出席し、私だけが現

在も参加し続けて早や20年、毎年この会を楽しみにしています。

世界中がコロナ禍に翻弄され続けている中、100名以上の参加があり、いつもながら楽しくも心温まる交流が出来ました。今回のテーブルには南城出身者が5人同席。花巻で生まれ、育ち、一時期同じ中学に在籍したということだけで、その後はなんの係わりもない人生を送つて来ていますが、会話は途切れることなく、兄弟姉妹、親戚、あちこちの場所、あの事柄で話が盛り上がりました。上田市

長さんから花巻の現状や展望についてのお話があり、課題が山積している中でもパワー溢れるスピーチに微力ながらも応援して行くこと思いました。ここからは私事です。

小中時代の社会科の教科書に岩手県は日本のチベットと書かれており、永い間劣等感みたいなしつくりしない感じを持っていました。以前、会場で小和田哲夫氏著「もつと知りたいたい岩手県の歴史」が売られていた人物が岩手県に沢山いたことに感激すら覚えました。今では岩手県や花巻の自慢話をあちこちでしています。

もう一つ。母は宮澤賢治さんから土地改良のこと、野菜作り等を教えて貰い、家計の足しになるくらい収穫出来たという話を聞いていました。賢治さんの下ノ畑と実家の畑は近いので、畑に向かう途中にいろいろな話や歌を歌ったりしたようです。また新見南吉氏著「賢治と南吉」の後に記に伊藤ハギノ(母)と均(兄)から賢治さんについて聞き取りをしたと書かれています。文盲で片方の目しか見えない母でしたが、父共々誠心誠意を道標に生きることを教えて下さったのは賢治さんだったように思えてなりません。

先月、7月9日に、私もこの「つどい」に会費九千円と安くはない催しに出席しましたが、どうして出席したのか?しかも、去年の十一月にも出たばかりだということに。理由は当たり前ではありませんが、やはり故郷花巻が、無性に恋しいからです。何故、そんなに花巻が恋しいのでしょうか?子供から高3迄の

そんな私の印象に残っているのは、何と云っても懐かしの鹿踊りでした。これを演じているのはなんと横浜の愛好家の皆様とか。子供時代は少し不気味で陰気な芸能とも思っていました。このつどいに参加しよう。



高橋 勉 (花中47年卒)

時は、楽しい思い出に溢れていた訳では決して無く、理由は自分でも明確ではないですが、ご多分に漏れず、私も宮澤賢治ファンでもあり、このお方の生まれ故郷であること、物語の舞台でもあること、が理由として大きいかと思います。私は、このつどいの参加者はやはり、花巻や賢治が好きだから参加しているのだらうと想像し、そんな方々と花巻の話ができれば楽しいだらうなと期待して出席した訳であります。

「第36回在京花巻人のつどい」収支決算報告 (単位:円)

収入	支出	摘要
744,000		会員参加者79名 (9,000×79)=711,000 内夫婦3組(△9,000) 寄付13件42,000
279,000		来賓参加者31名 (9,000×31)=279,000
400,000		一般会計より補助
	920,460	ホテル支払い
	82,096	つどい案内、ハガキ印刷 通信費、荷物搬送、他
	60,000	アトラクション(獅子躍) (食事代含)
	30,000	吊り下げ看板製作料
	50,000	司会、相撲甚句、他(謝礼)
	92,058	お土産、ワイン(4本)
1,423,000	1,234,614	差引残高 188,386

差引残高188,386円は一般会計に戻し入れました。

うして年齢を重ねて遙か東京のホテル内で目近に迫力溢れる太鼓と踊りに触れられるとは、大変な喜びで私の心も踊らされた。これだけでも会費分の価値ありか。そして、賢治が作った歌を参加者と一緒に歌えたい時も楽しいものでした。会食中に、一つ不安がよぎりました。それは、参加者名簿にある来賓を除く参加者の卒業年を見ると私も65歳と高齢ですが、私より若い参加者は、ほんの数名だけ。これは何とかしなければと思つた次第です。

愛する花巻について語るこの催しに、会報を閲覧になつている自称若年壮年の皆様、思わぬ出会いになるかもしれないこのつどいに参加しよう。

令和4年 在京花巻人のつどい



会員の活動報告コーナー

「いわて花巻観光物産フェア」 6/11〜12に大宮で開催



「いわて花巻観光物産フェア」は、6月11日(土)と12日(日)の二日間、大宮駅東口前にある大宮市の物産展用の貸店舗「まるまるひがしにほん(東日本連携センター)」で「いわて花巻観光物産フェア」が開催されました。この催事は、令和4年7月〜9月に開催されるJR東日本主催の大型観光キャンペーン「ドキドキ、キタキタ、北東北」に向けて、花巻市と連携する3つの市町(奥州市、遠野市、平泉町)の観光資源と物産品をPRすることを目的として

開催、花巻観光物産フェアと銘打っていますが3市町村の地場産品も取り揃えていました。

6月11日(土)の11時、東和町の春日流落合鹿踊が店頭で勇壮な踊りを披露、大宮駅前ということでも多くの通行人を惹きつけていました。店内は多くの買い物客で賑わっていました。店内は結構広く多くの花巻物産品が陳列されており、特にお酒売場の充実が目を引きました。なお、鹿踊は11日には11時、13時、15時の3回、12日には11時と13時の2回、演舞が披露されるとのことでした。

今回の観光物産展は、花巻の各ふるさと会の会員に事前告知していたこともあり、多くの会員が買い物と応援に駆け付けました。花巻市から観光課の主任阿部真也さん、観光協会から高橋誠吾さんが立ち会っておりお話を伺いましたが、成果が楽しみだと話していました。(編集部)

寄稿

二代目社長の「エーデルワイン物語」(第四回)

(株)エーデルワイン 取締役 藤館 昌弘

エーデルワインの洗脳のための行脚

私はエーデルワインを不味いとはおもわないがこの会社に入った。ワインを不味いという人はワインを飲んだことがない人だと思い「洗脳」しようという行動を開始した。会社には持ち歩くワインは自分で買って持ち歩けとの託宣。私は会社で一番高いワインを買い込み持ち歩き皆に飲んでもらった。最初は盛岡で知り合いの飲み屋から紹介された連中にワインを飲ませ感想を聞いて歩いた。私はその都度ワインを提供し会費を払い、時には全員の分まで支払ってワインを飲んでもらった。とにかく私はエーデルワインを有名にしたい一心でマスコミ関係に食い込むため、いろんな人を通じてアタックした。特に女子アナはじめマスコミ関係者にはワインを提供し盛岡の夜を飲み歩いた。花巻ではエーデルワインの応援団、エーデルワインを愛する会が発足、お医者さんが会長で皆を引っ張ってくれている。上田東一氏とは市長になる前「共栄」で何年か度々エーデルワインを飲んでもらい好評価を受け家に送ったものだ。

お粗末なパーティーからお助けマン

ある年東京のお台場のホテルでエーデルワインのワインパーティーを開催した際、伊藤英二花巻市観光大使(当時、読売新聞系列の広告会社社長)が参加されて、このパーティーはともお粗末で見てもらえない!と話された。それではと伊藤社長に依頼して首都圏にエーデルワインを売り込む作戦に出た。まず読売新聞に広告を出していただき、そして首都圏のマスコミ関係者を大迫に呼びエーデルワインはじめ早池峰山や神楽、さらにはチーズなど物産等を取材雑誌や新聞に書いてもらう。このことは今迄にない画期的なことでも注目集めが多くなった。さらにエーデルワインを取材する機会が多くなった。さらにエーデルワインは視聴率の高いテレビ番組も導入できるようなになった。この影響は大きくワイン関連の取材やワインの引き合いが多くなりエーデルワインが今日広範囲にわたって知れ渡るようになった大きな要因と私は感謝している。

会社を生かすも殺すも三代目!

我が家は先祖が苦勞して農地を広め、明治以後二代に亘ってさらに面積を拡大し蔵も三棟ほどあり若者も数名置いていた。それが三代目のお人好しの祖父の代には何も無くなっていた。エーデルワインの歴史は大迫町長村田柴太氏が種を蒔き、そして町長自らエーデルワインの社長として会社を立ち上げるため資金集めで苦勞した。その後ワイン醸造の神様、畑中清見氏が本格的なワイン醸造を教え伝えて今日のエーデルワインの基礎をつくった。

二代目の私の時代は千葉健氏が強固な販売網を構築しエリア拡大を図り経営の安定に多いに寄与した。私は千葉健氏を経営の神様と称し感謝している。多くの第三セクターはヒト、モノ、カネが揃わず失敗した。その中でエーデルワインはシブトク生き残り次世代にバトンを渡す事ができた。

エーデルワイン三代目社長、小田嶋新社長は酒類販売卸業大手の岩手支店長を経験し退職されていたので私がエーデルワインに招聘した。彼はすぐさま県内はもちろん仙台や首都圏など全国に販売ネットワークを有する業者をターゲットに奮闘し拡販してもらった。さらに会社組織の強化に取り組み社員の意欲も様変わりし、有名大学から高度な資格を有する人物なども入社して社風が変わりつつあることは将来に展望が開けるものと私は信じている。

またバイタリティ溢れる小田嶋新社長は常務として専務時代は私を陰に陽に支えてくれました。その判断力と決断力そして素早い行動力は今後エーデルワインをさらに発展させてくれるものだと私は確信している。なにより新社長は柔道有段者で体力があつて、アルコールには滅法強いことは頼もしい限りで花巻人会の皆様にも早くご披露したいと思っております。

花巻人会の皆様方には大変お世話になりました。このコロナウイルス感染が治まったならば是非参上し皆様に御礼申し上げたいと存じております。(元)

《はなまき あれこれ》

「第2次花巻市まちづくり総合計画」策定作業開始

総合計画は、市の今後のまちづくりの方向性や将来像を示すもので、平成25年に現在の総合計画が策定され、その後10年間にわたって様々な事業が進められてきました。市は、この度「次期花巻市総合計画策定の基本方針」を定め、令和6年度からの「第2次総合計画」を策定するための基本的な考え方や構成、内容などを示しました。この基本方針に基づき今年度から本格的な策定作業が進められます。(基本方針は市ホームページに掲載されています。)

自然減による人口減少が進む中、子育てや定住促進などの取組みにより令和元年より3年連続で社会増となるなど一定の成果が表れていますが、一方コロナ禍などで社会情勢は大きく変化し、市民のニ

ズも多様化、複雑化しています。このような状況の中で、令和6年度以降の将来にわたる持続可能なまちづくりを進めるため、第2次の総合計画の策定が必要となっています。

第2次総合計画では、①しごと、②暮らし、③健康・いのち、④子育て・人づくり、⑤地域づくり、⑥行政経営の6つの柱で、それぞれの目指す姿を決めて行きます。市は、市民ワークショップなど市民参加の取り組みを積極的に行いながら、令和4年から策定作業を本格的に進めます。長期ビジョンについては令和5年内に市議会の議決を経て策定、アクションプランについては令和5年度内の策定を予定しています。(広報はなまき6/1より)

「日本ワインフェスティバル花巻大迫2022」3年振り開催

全国のワイナリーが出店する「日本ワインフェスティバル花巻大迫2022」(実行委主催)が3年ぶりに大迫町の大迫交流活性化センター周辺で5/28～29に開催。東北最大規模のワイン催事の再開に、来場者は各ワイナリー自慢の味を楽しんでいました。

東日本の11都道府県からワイナリー34社が出展し、114種類のワインを提供しました。当日のワインチケットは2000円、大勢のワイン愛好者が各ワイナリーのワインを飲み比べながら、ホタテ焼きや各種チーズなども味わっていました。

2020年～2021年は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止、今年は来場者を県内居住者に限り各日限定500名とし、細心の注意を払っての再開でした。

二日間、JR花巻駅東口・新花巻駅から会場への有料シャトルバスを運行するなど便宜が図られ、定員いっぱいのお来場者となりました。(岩手日報5/29号、広報はなまき5/1号より)



ホテル花城閉館とレストラン再開

ホテル花城は、花巻まつりの際の御旅屋の真向かいにあるホテルとして市民に親しまれ、宿泊されたことがある方も多いかと思います。そのホテル花城は、去年、令和3年9月に新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、惜しまれながらも閉館となりました。

ホテルと同時に開業した本格的な和食・洋食・中華をリーズナブルな価格で楽しめた「レストラン マグノリア」もホテルと同時に一時休業、しかし、市

民からレストラン再会の要望が多く、洋食の専門のレストランとして今年5月10日に再開しました。

「レストラン マグノリア」は、岩手県産の食材にこだわったメニューにリニューアルし、再出発を図っています。帰省の折には、是非老舗洋食の味を楽しんでみてはいかがでしょうか。(住所：花巻市東町9-30、Tel 0198-22-2333)

(広報はなまき5/15より)

「母ちゃんハウスだあすこ」創業25周年を祝う

「JAいわて花巻」の農産物直売所「母ちゃんハウスだあすこ」は、平成9年の創業から今年6月で25周年を迎え、6月に誕生祭セール、7月には大創業祭を盛大に祝いました。

全国でも先駆的な存在の大型直売所としてスタートし、地元住民はもとより帰省客や観光客にも長い間愛されてきました。会員の皆さんの中にも、何度か立ち寄られた方は大勢いると思います。

店内には、旬の野菜のほか果物や花が一杯、それに手作りの加工品の多さが魅力となっています。特に手作りの和洋菓子や惣菜は人気で、午後には売り

切れてしまう商品が多いとの事。

吉田真澄店長は「地域の皆様に支えられて25年目を迎えることができた。これからも一層励んでいきます」と語っていました。

「母ちゃんハウスだあすこ」は、花巻市野田335-2、0198-24-2914、です。(ぽらーの花巻7月号、「母ちゃんハウスだあすこ」HPより)





〈賢治さんの思い出シリーズ 第四回〉

ありがとガンス 賢治先生

シリーズの第4回は、在京東和町友会の副会長鎌田節郎さんにお願ひしました。鎌田さんは東和町小山田のご出身です。今回はお父上への敬愛と宮澤賢治への感謝を綴っていただきました。なお、鎌田さんには「在京花巻人のつどい」で会場正面に掲げる看板を、毎回趣のある書体で制作していただいております。



在京東和町友会

副会長 鎌田 節郎

在京人となり東京に居住する日々が流れている。

花巻から上京後間もない頃、若手出身と言つと「ああー東北人ですね」と大雑把に言われる、少し悔しい感情も芽生えるが、「僕は若手県花巻の出身で宮澤賢治の出身地ですよ」と話すと、その

如くであるが、私鎌田節郎の父鎌田久吾も宮澤先生に学び人生そのものを変えた。

久吾の人生を変えた花巻農学校と鎌田家

まず、農学校を語る前に鎌田家ファミリーヒストリーを概略として語らせて頂く。

鎌田家は、江戸時代初期まで今の岩手県胆沢郡に居を構えていた。現在では盛岡が県庁所在地であるが、当時は奥州藤原氏の影響もあり江戸時代となつても胆沢地区は少しは賑わっていたと感じる。そして江戸時代、鎌田一族は今の花巻市小山田の地に移転、庄屋となり、名主、肝煎として代々生活を送っていた。

次は「雨二毛負ケス」の有名な作家ですよねと大半の方々は口を揃える。そして今では、花巻東校出身の大谷翔平となる、勿論、御両人とも郷土の誉れである。そして宮澤賢治を知らない人間は日本では皆無だろう、ただ、それは作家詩人の宮澤賢治であり、地質学者として農業その他に多大な功績を残した事を知る日本人は多くは無い。宮澤賢治は、その豊富な知識と豊かな教養で花巻の童(わらし)の為に甚大なる功績を残してくれた。当然の

金である。

当主善松は、世捨て人生活を送っていたので働くという概念が欠けていた。お嬢様育ちの妻トメは夫善松の有り様に嫌気がさし、大分我慢をしたが限界を感じ家を出て独り北海道へ行つてしまった。そして、絶望感により善松は自死という道を選んではまった。幼いイネと久吾は、親戚宅に預けられ過酷な幼少時代を送る。善松の借金は久吾が背負うことになった。

幼い久吾は農業を手伝い、親戚の家庭で成長した。「さて、これからの人生なんじょしたらい何が?」と心の中で反問する。大日本帝国となつた日本では、日本国中で知識や教養が庶民にも必要な時代になつて来た。

鎌田久吾は、農業従事者において農業の知識・教養を高める為、学問の必要性を見出した。そして、花巻農学校への進学を考える。

花巻農学校は、稗貫郡会において蚕業講習所として大正8年に設置され、大正10年に稗貫農学校と改称、大正12年には岩手県立花巻農学校とな

る、現在の岩手県立花巻農業高等学校である。いくら県立とは言え両親不在の中、受験は困難を極めたと感じる。勉学の中農業に従事し、時に農作業の為学校を休まなければならぬ。それでも入学は許可され、大正15年鎌田久吾は花巻農学校の生徒となった。

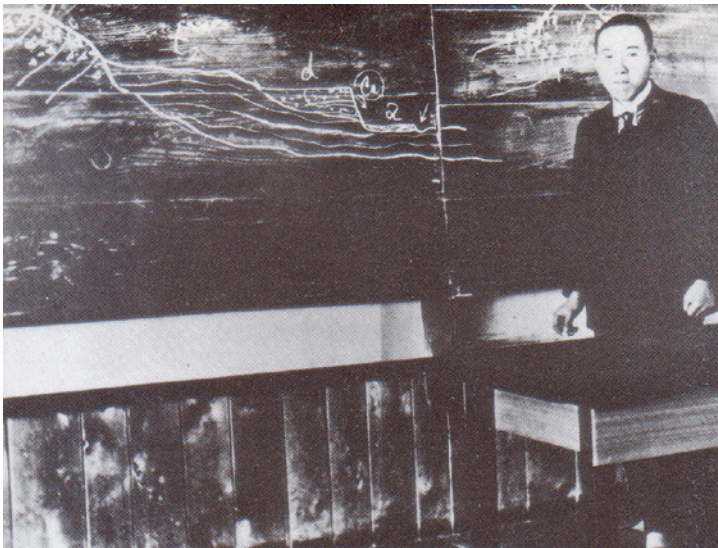
未来への胎動

今回、常々父と宮澤賢治との交流について人に話をしてきたことから、在京花巻人会の会報に書いてくれたの依頼が来た。そして改めて、父久吾の話していただいたことの裏付けを取ろうとしたが、有りとあらゆる資料の中で、生前父鎌田久吾が語っていた事に誤りがあった事、そして私が聞き間違いをしていたと感じる内容がいくつも見つかった。先ず、宮澤賢治は花巻農学校に教師として赴任していた時期は大正10年から大正15年のまでの5年間である。久吾が入学したのは大正15年である、これでは父が語っていた事と相違がある。しかし、息子としての私は、父と酒を酌み交

わしながら宮澤賢治先生との交流や自慢話はあまりにリアル過ぎてあながち嘘とも思えない。そして何より善松の残した多大な借金を久吾一代で返済し、実際私を含む一家9人を養い生活を支えた。勿論、久吾独りの力だけでは実現は出来なかつたと感じるが、話してくれた賢治先生との交流を疑う気にはなれなかつた。今回、このモヤモヤと憤りを解消すべく様々な資料を探す為、鎌田家に伝わる久吾略歴年表、インターネット、そして宮澤賢治先生が在京時代足繁く通つた帝国図書館(現国会図書館)にも資料を探すべく赴いた。

父久吾は生前、農学校の行事として一番楽しかった事として、赤い禪で駅伝大会で一等賞を授与した事、そして宮澤賢治先生と農業を皆と一緒に行った事(??)、小さい瞳を輝かせながら熱く語っていた、何回も何回も宮澤先生宮澤先生と繰り返した事。

記録に残る史実として、宮澤先生は花巻農学校教師時代学生達の土気



賢治 教壇

を高める為精神歌や応援歌を作曲した。田園劇の指導や上演など、学校行事イベントに力を注ぎ草創期の農学校の生徒の意欲を高めていった。そして、何より宮澤先生は農村文化の拡充や実際に役に立つ教育を目指し力を尽くした。大正15年3月、宮澤賢治先生は花巻農学校の教壇を去る。教諭時代の大正11年には、宮澤先生は良き理解者で最愛の妹のトシを病により失う失意の中に居た。農学校教師の4年4か月

の間に「春と修羅」「注文の多い料理店」などの名作品も生まれている。宮澤賢治は、後に自身の回想の中で農学校教師時代が生涯の中で最も愉快で明るい時であったと述べている。さて久吾であるが、農学校を卒業した後、農業従事者としていた。宮澤先生は農学校と周りの土地を利用して退職後は農耕自作生活をしていた、イーハトーブの実現の為だったかもしれない。農業はひとりの力で

は不可能である、農学校の生徒であった久吾は当然のごとお手伝いしたのであろう。そして、身の上もしたであらう。そう思えば、父久吾のリアルな会話も通じて合点もする。

大借金よんどほれ

ある時久吾は農耕技術研究の為、鎌田家ルーツの胆沢地区を訪ねる。その時、人生が変わる出会いがあった。元岩手県知事 千田正氏である。千田家は、北上川舟運事業を行う地域有数の豪農であった。千田正は、家業を継ぐべく大正2年胆沢農学校に入学、入学するも己が進むべき道は農業ではないと感じ、紆余曲折の後早大商学部に入学する。千田正の実業家として政治家としての活躍は、皆様ご承知の通りである。このお二人様、千田正は早大時代からの暴れん坊のわこ様、鎌田久吾は酒を呑むと小山田地区の暴れん坊のわこ様、そして唯一の共通点は共に農学校に入学していた事。何も自慢の無い久吾は、花巻農学校で宮澤先生と農業を行った事

などを千田正に語ったのだらう、そして何回も交流を深めていった。その時、久吾は小山田村議であった。

時は流れ、暫くして久吾は千田の紹介で宮守役場に勤務する。そして農学校時代宮澤先生から学んだ知識・経験を活かし宮守わさび田などを商業ベースに乗せる発案企画をし、岩手県農業普及員として土澤、小山田地区、綾織、鱒澤、達曽部、小友、北上市等々で地方農業に尽くした。私生活では、久吾は結婚して7人の子供を授かり、そして昭和18年に祖父善松の妻であったトメが北海道から帰還した。今となれば、トメは蘇民祭で有名になった胡四王神社の家に生まれた者として、借金を背負った夫は信じがたい存在だったのだらう。小山田に戻ったトメは、その命が尽きるまで産婆として地域で大活躍する。父久吾は、59歳で他界するまで、農業に身を捧げた人生であった。

イーハトーブのハームキヤ (花巻) に想つ

私鎌田節郎は、7人兄

弟の中で育った。イーハトーブの地はそれは楽しかった。自然の中、自分自身が得る物が多かった。イーハトーブ、宮澤賢治の世界観は、日本全国の小・中学校で学ばれ有名である。そして私は、上京し映画背景師となった。学生時代イーハトーブの中、描くことが好きな私は自然の中の鳥の声、虫の音色、草花の絨毯等をスケッチしていた、絵画の中にふんだんに登場させていた。結局それが仕事として生かされ、上京後黒沢明監督に認めて頂き現在に至っている。

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ小サナ萱ブキノ小屋ニイテ東ニ病氣ノコトモアレバ行ッテ看病シテヤリ西ニツカレタ母アレバ行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ南ニ死ニソウナ人アレバ行ッテコワガラナクテモイッツイヒ北ニケンクワヤソシヨウガアレバツマラナイカラヤメロトイヒヒデリノトキハナミダラナガシサムサノナツハオロオロアルキミンナニデクノボートヨバレホメラレモセズクニモサレスサウイフモノニワタシハナリタイ

仕事が終わり、亡き父を偲び酒場で呑む時は、必ず脳裏を掠めるのは、

これは宮澤賢治が亡き後発見された手帳の中の物云の詩である。あまりにも有名になったが、私はこの詩は父の久吾の事を書いてるのだと信じたい。そして花巻発イーハトーブが、これからの童(わらし)に影響を与える地であって欲しい切に願う。

雨ニモマケズ
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモ負ケ
又丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク決シテ曠ラス
イツモシズカニワラッテ
イル
一日ニ玄米四合 味噌ト
少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲジブン
ヲカンジヨウニ入レスニ
ヨクミキキシワカリソ
シテワスレズ

賢治先生 ありがとガンス 日本のためにありがとガンス
未来の童(わらし)達の為にありがとガンス

《首都圏で「花巻」と出会うコーナー》 **テレビ編**

Eテレ「ふるカフェ ハルさんの休日」に賢治の花壇が登場

NHKのEテレが木曜日22:30～23:00に放送している、俳優の渡部豪太が各地の古民家カフェを巡るドラマ仕立ての教養旅番組「ふるカフェ ハルさんの休日」に、6月の放送で「岩手花巻～宮澤賢治が愛した花壇を愛でるカフェ」として「茶寮かだん」が登場しました。

「茶寮かだん」は、橋本家（呉服商大津屋）の別邸として橋本英之助氏が夫人のために建てた建物を一ノ倉俊哉さんが購入し、2016年にカフェとして開業したものの。庭には、夫人と旧知の宮澤賢治が晩年に設計した花壇がありますが、ボーダーガーデンと呼ばれる当時としては斬新なものだったようです。

カフェは、素朴な味わいの郷土料理（番組ではハルさん

が「ひつつみ」を食べていました）を堪能できる上、洋館付き和風建築の室内が様々な木材でつくられた床の間や欄間、凝ったガラスや棧の意匠など見どころ一杯。又、賢治の妹クニさんが使ったオルガンも展示されており、賢治の世界観を感じながら時を過ごすことができます。



番組では、円万寺からの田園風景や、イギリス海岸、マルカンの食堂なども紹介されていましたが、出演者もオーナーの一ノ倉さんの他、花壇の説明には賢治記念館の牛崎敏哉さん、市街地の町おこしに取り組む小友康広さんなども出演し、花巻の素晴らしさを紹介していました。

BSテレ東の番組「The 名門校」に花巻東高校登場

去る6月6日(月)、BSテレビ東京22:00～22:30放送の番組「The 名門校」に花巻東高校が登場しました。この番組は歴史や校風、名門校の知られざる姿に迫る情報番組です。今回の番組は「花巻東…大谷翔平の活躍の原点は母校にあり」で、文武両道の学校として紹介されました。

まずカメラは、朝7:30にスポーツ部の朝練に集まってきた生徒が、早速敷地内の掃除を始める姿を捉えます。「ゴミ拾いは運拾い」と言いながら熱心に掃除する生徒達に、さりげなくMLBのグラウンドでゴミを拾う大谷選手の姿が重なります。

花巻東の教えの根本は「立志」と「夢実現」、そして夢を実現させるためには大きな志と明確な目標が必要としています。その目標に向かってどんな努力をするのかを、自ら考え実践していくために生徒は「目標設定チャート」を作成します。ソフトボール部の女子選手が「最初は効果があるかどうか疑問でしたが、作成し実践していくうちに効



果があることが判りました」とコメント、サッカー部も7月のインターハイ全国大会初出場を勝ち取りました。

花巻東は、近年は国立大や有名私立大への進学者も増えていますが、野球部の若松聡大さんは東大を目指して練習中もバックネット裏で試験勉強。勉強もスポーツも同じ精神で取り組むという興味深い試みですが、小田島順三校長は最後に「志が無ければ勉強もスポーツも成功しない」と述べていたのが印象的でした。

告知

イトーヨーカドーアリオ川口で「花巻市フェア」開催

10月22日(土)と23日(日)の両日、イトーヨーカドーアリオ川口に於いて「花巻市フェア」が開催されます。物産展のほか観光・移住定住・ふるさと納税などのブースや釜石線沿線活性化委員会による釜石線沿線観光PRなども予定されています。物産展は、出店が高源精麦・協同農産・エーデルワイン・やまそつりカー&フレッシュヤーズ・花巻温泉・上町家守舎の6社、他に9社が出品。又、鹿踊の演舞は、22日は13時～と15時～、23日は10時～、13時～、15時～です。

500円以上お買い上げにつき1枚抽選補助券を配布、補助券4枚で花巻の特産品が当たる抽選に参加出来ます。

アリオ川口は、埼玉県川口市並木元町1-79(JR川口駅西口から徒歩9分)、電話は048-257-0111です。是非、皆さんで買い物と応援に行きましょう。

ネットで花巻のエフエムワンを聴いてみませんか？

エフエムワンは「えふえむ花巻株式会社」が2010年から放送している超短波放送局の愛称です。エリア内では78.7メガヘルツで放送、本社・スタジオ共には3階にあります。

番組は、月～土は「モーニングOne」が7時～9時、「フライングプラス」が11時30分～14時、「もっす787」が17時～19時とそれぞれ生放送されています。

首都圏で聴く場合は、ネットで「fmone.net」を探し、JCBインターネットサイマルラジオを選択するとFM ONE/岩手県が出てきて聴くことが出来ます。

「第10回ふるさと応援ツアー」中止となる

2年振りに今年9/9～12に実施予定だった「ふるさとツアー2022」は、新型コロナウイルス第7波による感染者拡大により中止の止むなきに至りました。在京花巻ふるさと会のイベントとして、今回は在京東和町友会が幹事となり、S.I.銀河や花巻まつりを体験するツアーが企画されました。しかし、「コロナ感染増が収まらず、中止という残念な結果になりました」。